Ⅰ-4
ロマ人―差別と迫害の対象となってきた人々

テーマⅠではこれまでフィンランド語、スウェーデン語系フィンランド人、そしてサーミ人について勉強してきました。今回はロマ人について考えていくことにします。

「欧州審議会」（英語：Council of Europe、フランス語：Conseil de l'Europe）という重要な組織があります（日本語で「は欧州評議会」と訳されることもあります）。この組織は「地域言語または少数言語のための欧州憲章」（英語：European Charter for Regional or Minority Languages、フランス語：Charte européenne des langues régionales ou minoritaires）という条約を成立させています。同憲章は欧州地域の言語が財産であるという考え方にもとづき、これまで差別や同化の対象となってきた言語とその話者たちの権利を保障しようとするものです。ロマニ語はヨーロッパのほとんどすべての国に分布していますが、多くの国がそれらロマニ語を同憲章における保護の対象としており、フィンランドにおいてもロマ人やロマニ語を対象とする多くの施策が実施されてきています。なお、「地域言語または少数言語のための欧州憲章」については次に挙げる渋谷（2005）を、フィンランドのロマ人・ロマニ語については吉田（2008）も参考にしてください。

📖参考図書

渋谷謙次郎　編著. 2005.『欧州諸国の言語法：欧州統合と多言語主義』三元社.
吉田欣吾. 2008.『「言の葉」のフィンランド―言語地域研究序論』東海大学出版会.

【1】欧州審議会による「地域言語または少数言語のための欧州憲章」とは

Euroopan neuvoston alueellisia kieliä tai vähemmistökieliä koskeva eurooppalainen peruskirja (European Charter for Regional or Minority Languages) on ensimmäinen sitova kansainvälinen asiakirja, jolla pyritään vahvistamaan vähemmistökielten asemaa Euroopassa. Kieliperuskirja tuli kansainvälisesti ja Suomen osalta voimaan vuonna 1998. Peruskirjan numero Suomen säädöskokoelman sopimussarjassa on 23/1998.

■語句・文法

Euroopan neuvosto「欧州審議会（欧州評議会）」／alueellisia kieliä ja vähemmistö-kieliä「地域言語や少数言語に／を」［複分］< alueellinen kieli ja vähemmistö-kieli／koskeva「かかわるような」能現分 <koskea／perus-kirja「憲章」／sitova「縛るような、拘束するような」能現分 <sitoa／asia-kirja「文書」／jolla「それにより」［接］< joka／pyritään「しようとされる、試みられる」受現 < pyrkiä（+［入］～MA 不［入］）／vahvistamaan「強める」MA 不［入］< vahvistaa < vahva／kansain-välisesti「国際的に」［副］< -välinen／osalta「～に関しては」［奪］< osa／tulla voimaan「効力を発する、発効する」（voimaan［入］< voima）／säädös-kokoelman「法令集の」［属］< -kokoelma／sopimus-sarjassa「条約集において、条約シリーズにおいて」［内］< -sarja

●フィンランド語理解のための訳例

欧州の｜審議会の｜地域的な｜言語に｜そして｜少数言語に｜かかわるような｜欧州の｜憲章は（英語：European Charter for Regional or Minority Languages）｜である｜最初の｜縛るような｜国際的な｜文書、｜それにより｜試みられる｜強めようと｜少数言語の｜地位を｜欧州において。言語憲章は｜来た｜国際的に｜そして｜フィンランドの｜関しては｜効力へ｜1998 年に。憲章の｜番号は｜フィンランドの｜法令集の｜条約集において｜である｜1998 年第 23 号。

◎意訳

欧州審議会による「地域言語または少数言語のための欧州憲章」（英語：European Charter for Regional or Minority Languages）は、ヨーロッパにおける少数言語の地位を強化しようとする、拘束力をもつはじめての国際的文書である。フィンランド法令集の条約集における憲章の番号は1998 年第 23 号である。

★補足

フィンランドの法令や条約はすべて Finlex というサイト（<https://www.finlex.fi/fi/>）でみることができます。

【2】憲章は少数派言語を三つに分類するが、サーミ語は？

Peruskirjassa vähemmistökielet jaotellaan kolmeen ryhmään. Ensimmäiseen ryhmään kuuluvat alueelliset kielet tai vähemmistökielet. Näillä tarkoitetaan kieliä, joita perinteisesti käytetään tietyllä valtion alueella ja joita käyttävät valtion kansalaiset muodostavat muuta väestöä lukumääräisesti pienemmän kansanosan. Suomessa tähän ryhmään kuuluu saamen kieli.

■語句・文法

jaotellaan「分類される、分けられる」受現 < jaotella < jaottaa < jakaa／kolmeen ryhmään「三つのグループへ」［入］< kolme, ryhmä／kuulua「属する」／näillä「これら（の語句）により」［接］< nämä／tarkoitetaan「意図される」受現 < tarkoittaa／joita「それらを」［複分］< joka／perinteisesti「伝統的に」［副］< perinteinen < perinne < periä／käytetään「使われる」受現 < käyttää／tietyllä「特定の」［接］< tietty ⇒ tietää（この tietyllä は alueella を修飾します）／valtion「国家の」［属］< valtio < valta／joita käyttävät valtion kansalaiset「それらを使う国家の国民たちは」（käyttävät［複主］< käyttävä 能現分 < käyttää）／muodostaa「形成する」< muoto／muuta väestöä「他の住民よりも」［分］< muu väestö（分格は比較級と結びついて比較の対象を表すことができます）／luku-määräisesti「数の上で、数的に」［副］< -määräinen < -määrä／pienemmän「より小さな」［属対］< pienempi 比 < pieni／kansan-osan「国民の一部を」［属対］< -osa

●フィンランド語理解のための訳例

憲章において｜少数言語を｜分類される｜三つの｜グループへ。最初の｜グループへ｜属する｜地域

的な｜言語が｜あるいは｜少数言語が。これらにより｜意図される｜言語を、｜それらを｜伝統的に｜使われている｜特定の｜国家の｜地域において｜そして｜それらを｜使うような｜国家の｜国民たちは｜形成する｜他の｜住民よりも｜数的に｜より小さな｜国民の一部を。フィンランドで｜この｜グループへ｜属する｜サーミの｜言語が。

◎意訳

憲章において少数言語は三つのグループに分類される。最初のグループに属すのは地域言語あるいは少数言語である。これらにより意図されるのは、国家の特定の地域において伝統的に使用されるような言語であり、それらの言語を使用する国民は他の集団に比べ数的に小さな集団を形成する。フィンランドにおいてこの範疇に入るのはサーミ語である。

★補足

サーミ人を少数民族と呼ぶことがありますが、これについては若干問題があるようです。正確には先住・少数民族と呼ぶべきかもしれません。少数民族とは単純に多数派より人口が少ないという意味になりかねませんが、一方で先住民族という言葉には「自分たちの土地において抑圧・支配されてきた」という意味合いが含まれています（そして、先住民族は多数派であってもかまわないのだと思います）。

【3】スウェーデン語はフィンランド語に対して話者数の少ない公用語

Toiseen ryhmään kuuluvat valtion alueella vähemmän puhutut viralliset kielet. Suomessa tällainen asema on ruotsin kielellä.

■語句・文法

vähemmän「より少なく」比 ＜ vähän／puhutut「話されるような」［複主］＜ puhuttu 受過分 ＜ puhua／viralliset「公式の、公的な」［複主］＜ virallinen

●フィンランド語理解のための訳例

二番目の｜グループへ｜属する｜国家の｜地域において｜より少なく｜話されているような｜公式の｜言語が。フィンランドで｜このような｜地位は｜ある｜スウェーデン語に。

◎意訳

二番目のグループに属すのは、国家の領土内において〈他の公用語よりも〉話者の少ない公用語である。フィンランドでこのような地位を有するのはスウェーデン語である。

★補足

フィンランドの国語であるスウェーデン語の法的地位については、「フィンランド基本法」第 17 条に規定があります。『フィンランド語の世界を読む』17 課のテキスト 1 を参照してください。また同書の 18 課でもスウェーデン語を取り上げています。

【4】地域をもたない言語はフィンランドにも数多くある

Kolmantena ryhmänä peruskirjassa määritellään niin sanotut ei-alueelliset kielet. Näillä tarkoitetaan kieliä, joita perinteisesti puhutaan tietyssä valtiossa, mutta joita käyttävät kansalaiset eivät asu tietyllä alueella. Suomessa tyypillinen tämän ryhmän edustaja on romanikieli. Ei-alueellisiin kieliin lukeutuvat Suomessa myös venäjän, tataarin, jiddišin ja karjalan kielet.

■語句・文法

kolmantena「三番目の」[様]< kolmas < kolme／määritellään「定義される」受現 < määritellä／niin sanotut「いわゆる」[複主]< niin sanottu（sanottu 受過分 < sanoa）／ei-alueelliset「非地域的な、地域をもたないような」[複主]< -alueellunen < alue／tyypillinen「典型的な」< tyyppi／edustaja「代表者」< edustaa／ei alueellisiisn kieliin「非地域言語へ」[複入]< ei-elueellinen kieki／lukeutua「入る、属する」< lukea「数える」

●フィンランド語理解のための訳例

三番目の|グループとして|憲章において|定義される|いわゆる|非地域的な|言語を。これらにより|意図される|言語を、|それらを|伝統的に|話される|特定の|国家において、|しかし|それらを|話す|国民たちは|住まない|特定の|地域に。フィンランドでは|典型的な|この|グループの|代表者は|ロマニ語である。非地域的な|言語へ|属す|フィンランドでは|また|ロシア語、|タタール語、|イディッシュ語|そして|カレリア語が。

◎意訳

憲章において三番目の範疇として定義されているのが、いわゆる非地域的言語である。これにより意図されるのは、特定の国家において伝統的に話されていながら、それらを使用する国民が特定の地域には居住していないような言語である。フィンランドにおいてこの範疇を代表する典型的な言語がロマニ語である。フィンランドではまたロシア語、タタール語、イディッシュ語、そしてカレリア語も非地域言語に属している。

★補足

地域をもたない言語のうちロマニ語については、次の【5】以降でみていくことにします。その他の言語の話者数は、「地域言語または少数言語のための欧州憲章」第 6 回定期報告書（2023 年）によれば次の通りです。

ロシア語話者：93535 名
タタール語：母語として登録している者が 234 名（タタール人は 800 から 900 名）
イディッシュ語：母語として登録している者が 1 名（言語能力をもつ者は 100 名程度）
カレリア語：母語話者は 5000 名（カレリア語話者としてのアイデンティティをもつ者は 20000 名）

【5】報告書ではエストニア語と手話言語も扱われている

Raportissa kerrotaan myös viron kielestä ja viittomakielistä Suomessa.

■語句・文法

raportissa「報告書において」［内］< raportti（欧州審議会による「地域言語または少数言語のための欧州憲章」の締約国は、条約の履行状況等について定期的に報告書を提出することを義務づけられています。ここでの raportti はフィンランドが 2023 年に提出した第 6 回定期報告書のことをさしています。）／kerrotaan「語られる」受現 < kertoa

●フィンランド語理解のための訳例

報告書において｜語られる｜また｜エストニア語について｜そして｜手話諸言語について｜フィンランドにおける。

◎意訳

報告書ではまたエストニア語と、フィンランドの手話言語についても記述されている。

★補足

とくにエストニアが欧州連合に加盟した後で、労働者として多くのエストニア人がフィンランドへ移住しているようです。2021 年終わりの時点で、フィンランドにおけるエストニア語話者数は 50318 名となっておりロシア語に次ぐ数となっています。

フィンランドでは（フィンランド語系）フィンランド手話とスウェーデン語系フィンランド手話の二つが話されています。前者を母語とする者は 5500 名程度、後者を母語とする「ろう者」は 100 名程度とのことです（手話の母語話者と聴力の間には関係はありませんので、たとえば聴者でも手話を母語とする人々は存在します）。これらについては『「言の葉」のフィンランド―言語地域研究序論』（吉田欣吾. 2008 年. 東海大学出版会）の第 14 章で詳しく扱っていますので参考にしてください。なお、欧州憲章において手話が明確な対象とされていないことには多くの異論が表明されているようです。

それではロマニ語の話題へ移っていきましょう。なお、『フィンランド語の世界を読む』17 課のテキスト 2 でもロマニ語に言及されていますので、参考にしてください。

【6】フィンランドにおけるロマ人の人口は？

Yleisesti Suomessa käytetään arviota romaniväestön määrästä, joka on noin 10 000 henkilöä. Romanikielen lautakunta on kuitenkin tuonut esiin, että Suomen romanien lukumääräarvio on laadittu noin 30 vuotta sitten, ja että eräät tutkijatahot ovat katsoneet, että tämä arvio on vanhentunut ja että Suomen romanien tosiasiallinen nykyinen lukumäärä on huomattavasti tätä suurempi. Alueellisten romaniasiain neuvottelukuntien arvion mukaan romaneja asuu Etelä-Suomen alueella noin 4 500, Länsi-, Lounais- ja Sisä-Suomen alueella noin 2 000, Itä-Suomessa noin 1 500 ja Pohjois-Suomessa ja Lapissa yhteensä noin 1 200.[8]

◇原注（文中で言及されている参考文献など）

8 Rajala S. ja Schwartz M. (2020). Romanilapset varhaiskasvatuksessa ja esiopetuksessa. Selvitys vuosilta 2018–2019. Opetushallitus. Raportit ja selvitykset 2020:26, s. 8.

■語句・文法

yleisesti「一般的に」［副］< yleinen／arviota「推定（値）を」［分］< arvio < arvata／romani-väestön「ロマ人口の、ロマ人集団の」［属］< -väestö／romani-kielen lauta-kunta「ロマニ語委員会」（教育文化省の下にある Kotimaisten kielten keskus「国内言語センター」内でロマニ語を担当する委員会。）／tuoda esiin「指摘する、提示する」／luku-määrä-arvio「推定値」／on laadittu「作成された」受完 < laatia／eräät tutkija-tahot「ある研究者方面は、ある研修者集団は」［複主］< eräs tutkija-taho／on vanhentunut「古くなっている、時代遅れとなっている」単 3 完 < vanhentua < vanha／tosi-asiallinen「実際の、真実の」／huomattavasti「著しく」［副］< huomattava 受現分 < huomata／tätä「これよりも」［分］< tämä（この分格は次の比較級と結びついています）／suurempi「より大きい」比 < suuri／alueellisten「地域の」［複属］< alueellinen／romani-asiain「ロマニ問題の」［複 2 属］< -asia／neuvottelu-kuntien「審議会の」［複属］< -kunta／lounais-「南西の」< lounainen< lounas／yhteensä「全部で、合計して」［入］+ 複 3 所接 < yksi

●フィンランド語理解のための訳例

一般的に|フィンランドでは|使われる|推定値を|ロマ人口の|数について、|それは|である|約|1万|人。ロマニ語の|委委員会は|しかしながら|指摘している、|〈次の〉［ことを|フィンランドの|ロマ人たちの|推定値は|作成された|約|30 年|前に］、|そして|〈次の〉［ことを|ある|研究者方面は|見ている、〈次の〉［ことを|この|推定値は|古くなっている］|そして|〈次の〉［ことを|フィンランドの|ロマニ人たちの|実際の|現在の|数は|である|著しく|これよりも|大きい］。地域の|ロマニ問題の|審議会の|推定の|よれば|ロマニ人たちは|住んでいる|南フィンランドの|地域に|約|4500、|西、南西、|そして|内陸フィンランドの|地域に|約 2000、|東フィンランドに|約 1500|そして|北フィンランドに|そして|ラップランドに|合計して|約 1200。

◎意訳

フィンランドではロマニ人口の数については一般的に 1 万人とする推定値が使われている。しかし、ロマ語委員会は、フィンランドにおけるロマニ人口の推定値は約 30 年前のものであり、この値は時代遅れとなっており、実際のロマニ人口ははるかに多いとする研究者たちがいると指摘している。各地域のロマニ問題審議会の推定によれば、ロマ人はフィンランド南部に約 4500 人、西部、南西部、そして内陸部に約 2000 人、東部に約 1500 人、さらに北部とラップランドに合計で約 1200 人が居住している。

【7】フィンランドのロマ人はスウェーデンにも居住している

Romanit asuvat hajallaan eri puolilla Suomea ja jakaantuvat alueellisesti epätasaisesti. He elävät pääasiallisesti suurissa kaupungeissa. Muista EU-maista Suomeen muuttaneiden romanien määrä on tasaisessa kasvussa ja niin ikään esimerkiksi Bulgarian ja Romanian romanimurteiden äidinkielisten puhujien määrä kasvaa Suomessa. Suomen romaneja arvioidaan asuvan Ruotsissa noin 3 000 - 4 000.

■語句・文法

hajallaan「バラバラに、散らばって」[接]+ 複 3 所接 < haja = hajalla ⇒ hajalleen, hajalle／eri puolilla Suomea「フィンランドの各地に」／jakaantua「分かれる」< jakaa／alueellisesti「地域的に」[副] < alueellinen／epä-tasaisesti「不均衡に」[副] < -tasainen／pää-asiallisesti「おもに」[副] < -asiallinen < -asia／muuttaneiden「移住したような」[複属] < muuttanut 能過分 < muuttaa／tasaisessa kasvussa「着実な増加の中で、着実に増加して」[内] < tasainen kasvu／niin ikään「同様に」／romani-murteiden「ロマニ語諸方言の」[複属] < -murre／äidin-kielisten puhujien「母語話者たちの」[複属] < äidin-kielinen puhuja／arvioidaa「推定される」受現 < arvioida／asuvan「住んでいると」[属] < asuva 能現分 < asua〔分構〕

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人たちは|住んでいる|バラバラに|さまざまな|側に|フィンランドの|そして|分かれる|地域的に|不均衡に。彼らは|暮らす|おもに|大きな|都市で。他の|EU 諸国から|フィンランドへ|移住した|ロマ人の|数は|着実に増加している|そして|同様に|たとえば|ブルガリアの|そして|ルーマニアの|ロマニ語諸方言の|母語の|話し手たちの|数は|増えている|フィンランドにおいて。フィンランドの|ロマ人を|推定されている|住んでいると|スウェーデンに|約|3000 から 4000・

◎意訳

ロマ人たちはフィンランド各地に広がって居住しており、地域的には不均衡に分散している。彼らはおもに大都市で生活している。他の EU 諸国からフィンランドへ移住したロマ人たちの数は着実に増えており、同様に、たとえばブルガリアやルーマニアのロマニ語方言の母語話者たちの数もフィンランドでは増加している。また、約 3000 人から 4000 人のフィンランドのロマ人たちがスウェーデンに居住していると推定されている。

【8】ロマ人たちの起源はインドにあるようだ

Useimmat tutkijat ovat olleet sitä mieltä, että romanit ovat lähtöisin Intiasta. Kielitieteen tutkimuksissa on havaittu, että paikallisten romanien kielissä ja Intiassa puhutuissa ~~sanskritissä~~ sanskritissa sekä hindin kielessä on paljon yhtäläisyyksiä. Kielen rakenteen ja sanaston perusteella romanien alkukotina on pidetty Luoteis-Intiaa.

■語句・文法

useimmat「ほとんどの」[複主]< usein 最 < usea／ovat olleet「（これまで）～である」複 3 完 < olla／sitä mieltä, että ~「～という考えで、～という意見で」／lähtöisin「出身で」（+[出]～[奪]）／tutkimuksissa「研究において」[複内]< tutkimus < tutkia／on havaittu「気づかれている、判明している」受完 < havaita／paikallisten「地域の、現地の」[複属]< paikallinen < paikka／puhutuissa「話されていたような」[複内]< puhuttu 受過分 < puhua／sanskritissä となっていますが sanskritissa の誤りだと思います（sanskritissa「サンスクリット語に」[内]< sanskrit）／hindin kielessä「ヒンディー語に」（ヒンディー語はインドで話される言語ですが、ヒンディー語、サンスクリット語、そしてロマニ語はいずれもインド・ヨーロッパ語族に属していると考えられています。）／yhtä-läisyyksiä「類似点が」[複分]< -läisyys < -läinen（yhtä[分]< yksi）／rakenteen「構造の」[属]< rakenne < rakentaa／sanaston「語彙の」[属]< sanasto < sana／perusteella「もとづいて」[接]< peruste／alku-kotina「原郷として」[様]< -koti（「原郷」とは親縁関係にある諸言語の祖先である祖語が話されていたと考えられる地域のこと、あるいは祖語を話していた人々の故郷のことです。）／on pidetty「みなされている」受完 < pitää／luoteis-「北西の」< luoteinen < luode

●フィンランド語理解のための訳例

ほとんどの|研究者たちは|（これまで）である|〈次のような〉[考えで、|ロマ人たちは|出身である|インドから]。言語学の|研究において|気づかれている、|〈次の〉[ことに|地域の|ロマ人たちの|言語に|そして|インドで|話されていた|サンスクリット語に|さらに|ヒンディー語に|ある|多く|類似点が]。言語の|構造の|そして|語彙の|もとづいて|ロマ人たちの|原郷として|みなされている|北西インドを。

◎意訳

ロマ人たちの起源はインドにあるというのが、ほとんどの研究者たちの考えである。言語学の研究においては、各地のロマ人たちの諸言語とインドで〈かつて〉話されていたサンスクリット語、さらに〈現在話されている〉ヒンディー語には多くの類似点があることが判明している。言語の構造や語彙にもとづき、ロマ人たちの原郷は北西インドであるとみなされている。

【9】ロマ人たちは多くの名称で呼ばれてきた

Romaniväestöstä on käytössä useita eri nimityksiä. Kaikkein tutuin suomalaisille lienee edelleen nimitys “mustalainen”. Sen lisäksi, että sitä on käytetty kuvaamaan tähän kyseiseen ryhmään kuuluvaa henkilöä, sitä on käytetty myös negatiivisissa yhteyksissä haukkumasanana. Romaneja on kutsuttu myös “tummiksi”. Viime vuosien aikana on virallisissa yhteyksissä yleistynyt romani -nimityksen käyttö. Sana romani tulee romaninkielisestä sanasta “rom”, joka tarkoittaa ihmistä.

■語句・文法

romani-väestöstä「ロマ人口について、ロマ人たちについて」／on käytössä「使われている」（käytössä[内] < käyttö < käyttää）／useita「多くの」[複分]< usea／nimityksiä「名称が」[複分]

< nimitys < nimittää < nimi／kaikkein「すべての中で」< kaikki（最上級と結びつく語です）／tutuin「もっとも知られたような」最 < tuttu（tuttu は tuntea と同じ意味の*tuta という動詞の受動過去分詞の形だとされています）／lienee「～であるかもしれな」［可］単 3 < olla／edelleen「依然として」／mustalainen「ロマ人」（フィンランドではロマ人については mustalainen という語が長い間使われてきましたが、直訳すれば「黒い人」となるでしょうか。この「黒い」はロマ人たちが身につける衣裳の色に由来するということです。）／sen lisäksi, että ~「～だということに加えて」／on käytetty「使われてきた、使われていた」受完 < käyttää／kuvaamaan「描くために、表すために」MA 不［入］< kuvata < kuva／tähän kyseiseen ryhmään「この当該の集団へ」［入］< tämä kyseinen ryhmä／kuuluvaa「属するような」［分］< kuuluva 能現分 < kuulua／negatiivisissa yhteyksissä「否定的な文脈で、否定的なつながりにおいて」［複内］< negatiivinen yhteys／haukkuma-sanana「蔑称として」［様］< -sana／on kutsuttu「呼ばれてきた」受完 < kutsua／tummiksi「tumma（黒い、暗い色の）だと」［複変］< tumma（やはりロマ人たちについては tumma という呼び方もされてきたようです）／viime vuosien aikana「近年では」（viime は格変化しません。vuosien［複属］< vuosi、aikana［様］< aika）／virallisissa yhteyksissä「公的な文脈で、公的には」［複内］< virallinen yhteys／on yleistynyt「一般的になってきた」単 3 完 < yleistyä < yleinen

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人たちについて|使われている|多くの|さまざなまな|名称が。すべてのうちで|もっとも知られたような|フィンランド人にとって|であるかもしれない|依然として|名称が|”mustalainen”。〈次の〉［ことに加えて|それを|使われてきた|表すために|この|問題の|集団に|属する|人物を］、|それを|使われてきた|また|否定的な|つながりにおいて|蔑称として。ロマ人たちを|呼ばれてきた|また|”tumma”だと。近年では|公的なつながりにおいて|一般的になっている|romani という名称の|使用が。romani という語は|来る|ロマニ語の|単語から|”rom”、|それは|意味する|人間を。

◎意訳

ロマ人たちについては多くのさまざまな名称が使われている。それらのうちでフィンランド人にもっともなじみがあるのは、依然として ”mustalainen”（「黒い人」） という名称かもしれない。その語は当該集団に属する人物を表すのに使われてきたのに加えて、また否定的な文脈において蔑称としても使われてきた。ロマ人たちはまた ”tumma”（「暗い色の」）とも呼ばれてきた。近年になると公的な場面では ”romani” という名称の使用が一般的なものとなっている。この ”romani” という語はロマニ語の ”rom” という語から来ているが、それは「人間」を意味する。

★補足

先住民族や少数民族については、自称を尊重するのがほぼ常識となっています。たとえばサーミ人たちは、かつては lappalainen と呼ばれていましたが、現在では saamelainen という語が使われるようになっています。

【10】ロマ人たちがヨーロッパへ現れたのは 1322 年頃のこと

Romanien Eurooppaan saapumisvuotena pidetään yleisesti vuotta 1322, jolloin Simon Simeonisin muistiinpanojen mukaan ryhmä romaneja oli majoittunut Kreetan saarelle. Saman vuosisadan lopulla romaniryhmästä on mainintoja Kyproksen saarelta. 1300-luvun lopusta vuoteen 1430 mennessä romanit olivat levittäytyneet lähes koko Eurooppaan, lukuun ottamatta Pohjois-Eurooppaa. Pohjoismaihin romanit saapuivat ensimmäisen kerran 1500-luvun alussa. Olaus Petrin kronikassa kerrotaan romanien saapumisesta Ruotsiin vuonna 1512. Vuodelta 1559 heistä on mainintoja Ahvenanmaalta ja vuodelta 1580 Turusta.

■語句・文法

saapumis-vuotena「到着年として」[様]< -vuosi（saapumis- < saapuminen 動名 < saapua）／pidetään「みなされる」受現 < pitää／jolloin「そのときに」< joka／Simeonisin「Simeonis の」[属] < Simeonis（Simon Simeonis「シモン・シメオニス」は 14 世紀アイルランドの修道士・作家のようです）／muistiin-panojen「メモの、メモ書きの」[複属]> -pano < panna（muistiin [入]< muisti < muistaa）／ryhmä romaneja「ロマ人たちの集団が」（ryhmä「集団」といった語は分格の語をしたがえます。）／oli majoittunut「（一時的に）住み始めていた、定着していた」単 3 過完 < majoittua／Kreetan saarelle「クレタ島へ」／vuosi-sadan「世紀の」[属]< -sata／romani-ryhmästä「ロマ人の集団について」／mainintoja「言及が」[複分]< maininta < mainita／Kyproksen saarelta「キプロス島から」／1300-luvun「1300 年代の」（luvun [属]< luku）／vuoteen「～年へ、～年まで」[入]< vuosi／mennessä「～までには」e 不[内]< mennä〔時構〕／olivat levittäytyneet「広がっていた」複 3 過完 < levittäytyä < levittää < levitä／lukuun ottamatta「～を除いて」（lukuun [入]< luku「数」、ottamatta MA 不[欠]< ottaa）／Olaus Petri「オラフ・ペーテルソン」（1497-1552）はスウェーデンの神学者／kronikassa「年代記において」[内]< kronikka／saapumisesta「到着することについて」[出]< saapuminen 動名 < saapua／Ahvenan-maa「オーランド」（スウェーデン語名は Åland。フィンランド領ですが高い自治を有しており、スウェーデン語単一言語の地域となっています）

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人たちの|ヨーロッパへ|到着年として|みなされている|一般的に|1322 年を、|そのときに|シモン・シメオニスの|メモの|よれば|［集団が|ロマ人たちの］|定着していた|クレタ島へ。同じ|世紀の|終わりに|ロマ人集団について|ある|言及が|キプロス島から。1300 年代の|終わりから|1430 年までには|ロマ人たちは|広がっていた|ほぼ|全|ヨーロッパへ、|［数に|入れずに|北ヨーロッパを］。北欧諸国へ|ロマ人たちは|到着した|はじめて|1500 年代の|初めに。オラフ・ペーテルソンの|年代記において|語られる|ロマ人たちの|到着することについて|スウェーデンへ|1512 年に。1559 年から|彼らについて|ある|言及が|オーランドから|そして|1580 年から|Turku から。

◎意訳

ロマ人たちがヨーロッパに到着したのは一般的に 1322 年とされており、シモン・シメオニスのメモ

によれば、そのときにはロマ人たちの集団がクレタ島に定着していた。同世紀の終わりには、キプロス島におけるロマ人集団についての言及も見つかる。1300 年代終わりから 1430 年までには、ロマ人たちは北ヨーロッパを除いてヨーロッパのほぼ全域に広がっていた。北欧諸国へはじめてロマ人たちが到着したのは 1500 年代の初めである。オラフ・ペーテルソンの年代記においては、1512 年にロマ人たちがスウェーデン到着したことについて語られている。1559 年には彼らについてオーランドに、そして 1580 年には Turku にいるとの言及がなされている。

【11】ロマ人たちの歴史は迫害と暴力に満ちていた

Romanien historiaan liittyy paljon eriasteista vainoa ja väkivaltaa. He ovat olleet kautta historian helppoja vihan kohteita. Heitä on syytetty milloin mistäkin epäkohdasta tai onnettomuudesta. Vainot alkoivat jo 1500-luvulla.

■語句・文法

liittyä「結びつく」／eri-asteista「さまざまな度合いの、さまざまなレベルの」［分］< -asteinen < aste／vainoa ja väki-valtaa「迫害と暴力が」［分］< vaino ja väki-valta／kautta historian「歴史を通じて」／vihan「憎しみの」［属］< viha／kohteita「対象」［複分］< kohde／on syytetty「非難された、責められた」受完 < syyttää／milloin は「いつ」という意味の疑問詞ですが、ここでは「そのときそのときに、ときどきに、繰り返し」といった意味で使われています。／mistäkin「それぞれの、すべての」［出］< mikin／epä-kohdasta「不満について、不平について、不正について」［出］< -kohta／onnettomuudesta「不幸について、事故について」［出］< onnettomuus < onneton < onni

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人たちの｜歴史へ｜結びつく｜多く｜さまざまな度合いの｜迫害が｜そして｜暴力が。彼らは｜～であった｜歴史を通じて｜簡単な｜憎しみの｜対象。彼らを｜責められた｜そのときそのときに｜それぞれの｜不満について｜そして｜不幸について。迫害は｜始まった｜すでに｜1500 年代に。

◎意訳

ロマ人たちの歴史には、程度の差こそあれ多くの迫害や暴力が結びついている。彼らは歴史を通じて容易に憎しみの対象となってきた。そのときそのときに、あらゆる不満や不幸の原因だとロマ人たちは責めを負わされてきた。迫害はすでに 1500 年代には始まっていた。

★補足

ロマ人たちがなぜ差別や迫害の対象となってきたのかというのは難しい問題です。たとえば彼らが移動生活をしていたこと、彼らの文化や価値観が多数派文化と異なっていること、そして彼らが学校教育に否定的な態度をとってきたことなどが挙げられるかもしれません。これらについて後ほど少しですが扱うつもりです。

【12】ロマ人たちはおもにスウェーデンを経由してフィンランドにやってきた

Suomeen romanit ovat tulleet pääasiassa lännestä Ruotsin kautta, tosin osa on saapunut myös idästä ja etelästä. Romanien saapuessa Suomi oli osa Ruotsia, joten suhtautuminen heihin noudatteli Ruotsin määräämiä linjoja.

■語句・文法

pää-asiassa「おもに」[内]< -asia／lännestä「西から」[出]< länsi／tosin「ただし」／saapuessa「到着するときに」e 不[内]< saapua〔時構〕／joten「そのため」／suhtautuminen「向き合うこと、対処すること」動名 < suhtautua ⇒ suhde／noudatella「したがう、沿う、則る」< noudattaa／määräämiä「定めるような」[複分] < määräämä 動分 < määrätä／linjoja「路線に／を」[複分]< linja

●フィンランド語理解のための訳例

フィンランドへ|ロマ人たちは|来た|おもに|西から|スウェーデンの|経由して、|ただし|一部は|到着した|また|東から|そして|南から。ロマ人たちの|到着するときに|フィンランドは|一部だった|スウェーデンの、|そのため|向き合うことは|彼らへ|沿っていた|スウェーデンの|定めるような|路線に。

◎意訳

フィンランドへはロマ人たちはおもにスウェーデンを経由して西からやってきたが、ただし一部は東や南から到着した。ロマ人たちがフィンランドへ到達したとき、フィンランドはスウェーデンの一部であったため、彼らへの対応はスウェーデンの定めた路線に則ったものとなった。

★補足

フィンランドは自らの国家を樹立する以前にスウェーデン統治下に入り、1809 年までスウェーデン王国の一地域として存在していました。

【13】「絞首法」により、ロマ人は裁判なしで処刑できるようになった

Vuonna 1637 astui voimaan laki, jonka mukaan kaikki romanit tuli karkottaa. Maahan jääneet voitiin teloittaa ilman oikeudenkäyntiä. Tämä niin kutsuttu hirttolaki oli voimassa vuoteen 1748 saakka.

■語句・文法

astua voimaan「発効する」／jonka mukaan「それによれば」／kaikki romanit「すべてのロマ人たちを」[複主対]< kaikki, romani（kaikki の複数主格・対格は例外的に kaikki となります。この kaikki romanit は karkottaa の目的語です。）／tuli「しなければならなかった」単 3 過 < tulla（+ A 不）／karkottaa「追放する」／jääneet「残ったような（人々を）」[複主対]< jäänyt 能過分 < jäädä／voitiin「できた」受過 < voida／teloittaa「処刑する」／oikeuden-käyntiä「裁判」[分]< -käynti／niin kutsuttu「いわゆる」（kutsuttu 受過分 < kutsua）／hirtto-laki「絞首法」（hirtto < hirttää < hirsi）／oli voimassa「効力があった、有効だった」／vuoteen 1748 saakka「1748 年までずっと」

（vuoteen［入］< vuosi）

●フィンランド語理解のための訳例

1637 年に|発効した|法律が、|それの|よれば|すべての|ロマ人たちを|しなければならなかった|追放する。国へ|残った者たちを|できた|処刑する|［なしで|裁判］。この|いわゆる|絞首法は|有効だった|1748 年までずっと。

◎意訳

1637 年にある法律が発効したが、それによればロマ人たちはすべて追放しなければならなかった。国内に残留するロマ人たちは、裁判なしで処刑することができた。このいわゆる「絞首法」は 1748 年まで有効だった。

【14】フィンランド独立後にロマ人はフィンランド国民とされたが差別は続く

Suomen julistauduttua itsenäiseksi vuonna 1917 ja uuden perustuslain tullessa voimaan vuonna 1919, romaneista tuli Suomen kansalaisia. Heillä oli periaatteessa samat oikeudet ja velvollisuudet kuin muillakin suomalaisilla. Käytännössä tilanne ei ollut kuitenkaan aivan yhtä ruusuinen. Romanien syrjintä jatkui edelleen, samoin kuin heidän sulauttamisyrityksensä.

■語句・文法

julistauduttua「宣言した後で」［分］< julistauduttu 受過分 < julistautua〔時構〕／itse-näiseksi「独立していると」［変］< itse-näinen < itse／uuden perustus-lain「新しい基本法の、新しい憲法の」［属］< uusi perustus-laki／tullessa「来るときに」e 不［内］< tulla〔時構〕／romaneista tuli Suomen kansalaisia「ロマ人たちはフィンランド国民になった」（［出］+ tulla +［主］～［分］「～は…になる」）／periaatteessa「原則として」［内］< periaate／oikeudet ja velvollisuudet「権利と義務」［複主］< oikeus ja velvollisuus／käytännössä「現実に、実際のところ」［内］< käytäntö／tilanne「状況」／yhtä「同じくらい」［分］< yksi／ruusuinen「バラ色の」< ruusu／syrjintä「差別、社会的排除」< syrjiä／samoin kuin ~「～と同様に」／sulauttamis-yrityksensä「同化させようとする試み」［主］+ 複 3 所接 <
-yritys（sulauttamis- < sulauttaminen 動名 < sulauttaa < sulaa、yritys < yrittää）

●フィンランド語理解のための訳例

フィンランドの|宣言した後で|独立していると|1917 年に|そして|新しい|基本法が|来るときに|効力へ|1919 年に、|ロマ人たちから|来た|フィンランドの|国民が。彼らには|あった|原則として|同じ|権利が|そして|義務が|［と|他の|フィンランド人たちに］。実際には|状況は|ではなかった|しかしながら|まったく|同じくらい|バラ色の。ロマ人たちの|差別は|続いた|依然として、|［と同様に|彼らの|同化させる試み］。

◎意訳

1917 年にフィンランドが独立を宣言した後、そして 1919 年に新たな基本法が発効したときに、ロマ人たちはフィンランドの国民となった。彼らは原則として他のフィンランド人たちと同じ権利と義務を有することになった。しかし現実には、状況は同じようにバラ色だったというわけではなかった。ロマ人たちに対する差別は依然として続き、彼らを同化させようとする試みも同様だった。

【15】1960 年代以降になると、ロマ人の中から立ち上がる人々が現れた

Kuusikymmentä luvulle tultaessa tilanne alkoi vähitellen muuttua. Hyvinvointivaltion kehitys takasi hengissä pysymisen, ja toisin kuin aikaisemmin, romanien tilanteen pohtimiseen ja toimenpiteiden toteuttamiseen alkoi nousta henkilöitä ryhmän sisältä. He tunsivat kulttuurin, tiesivät mitä tulee ottaa huomioon ja myös romaniväestö suhtautui heihin luottavaisemmin. Ensimmäisiä ratkaistavia ongelmia olivat asunto- ja toimeentulokysymykset. Seuraavina tulivat koulutus ja kulttuurin säilyttäminen. 1970-luvulta saakka romanikysymystä on alettu käsitellä monikulttuurisesta näkökulmasta ottaen huomioon kulttuurin erityispiirteet.

■語句・文法

tultaessa「来るときに」受 e 不［内］< tulla〔時構〕／vähitellen「少しずつ、徐々に」⇒ vähän／hyvin-vointi-valtion「福祉国家の」［属］< -valtio／kehitys「発展」< kehittää／takasi「保証した」単 3 過 < taata／hengissä pysymisen「生存を」（hengissä［複内］< henki、pysymisen［属対］< pysyminen 動名 < pysyä）／toisin kuin ~「～とは異なり」（toisin［複具］< toinen）／aikaisemmin「以前に」／pohtimiseen「検討することへ」［入］< pohtiminen 動名 < pohtia／toimen-piteiden「行動の、施策の」［複属］< -pide／toteuttamiseen「実行することへ」［入］< toteuttaminen 動名 < toteuttaa < tosi／ottaa huomioon「考慮する」／luottavaisemmin「より信頼して」［副］比 < luottavainen < luottava 能現分 < luottaa／ratkaistavia「解決されるべきような」［複分］< ratkaistava 受現分 < ratkaista／asunto- ja toimeen-tulo-kysymykset「住宅と生計の問題」［複主］< -kysymys < kysyä／seuraavina「次に、次のものとして」［複様］< seuraava 能現分 < seurata／säilyttäminen「維持すること」動名 < säilyttää／on alettu「始められた」受完 < alkaa／käsitellä「扱う」< käsittää < käsi／moni-kulttuurisesta näkö-kulmasta「多文化（主義）の視点から」［出］< moni-kulttuurinen näkö-kulma／ottaen huomioon「考慮に入れることにより」（ottaen e 不［具］< ottaa）／erityis-piirteet「特徴を」［複主対］< -piirre

●フィンランド語理解のための訳例

60|年代へ|来るときに|状況は|始めた|少しずつ|変わる。福祉国家の|発展は|保証した|生きていることの中に|とどまることを、|そして|［異なり|以前とは］、|ロマ人たちの|状況の|検討することへ|そして|行動の|実行することへ|始めた|立ち上がる|人々が|集団の|中から。彼らは|知っていた|文化を、|知っていた|［何を|しなければならない|考慮する］|そして|また|ロマ人ロは|向き合った|彼らへ|より信頼して。最初の|解決されるべき|問題|であった|住宅〈問題〉|そして|生計問題

が。次のものとして|来た|教育が|そして|［文化の|維持することが］。1970 年代から|ずっと|ロマ人問題を|始めた|扱う|多文化（主義）の|視点から|［考慮に入れることにより|文化の|特徴を］。

◎意訳

1960 年代へ入ると状況は少しずつ変化し始めた。福祉国家としての発展により生存は保証されるようになり、以前とは異なり、ロマ人たちの置かれた状況を検討し、行動を起こすために集団内部から人々が立ち上がり始めた。彼らは〈ロマ人〉文化に精通し、何を考慮すべきが分かっており、またロマ人たちはより信頼感を抱いて彼らに向き合った。最初の解決すべき問題としてあったのは住宅問題、そして生計の問題だった。次に解決すべき問題となったのが教育、そして文化維持ということだった。1970 年代以降は、〈ロマ人〉文化の特徴を考慮に入れながら多文化〈主義〉の視点からロマ人問題を扱うようになった。

【16】ロマニ語の地位は基本法により保障されている

Romanikielen asema on turvattu lailla, sillä vuonna 2000 voimaan astuneessa perustuslaissa turvataan oikeus romanikulttuurin ja kielen kehittämiseen sekä ylläpitämiseen. Kulttuuria ja kieltä tukevat yksiköt valtionhallinnossa eivät kuitenkaan ole riittäviä, eikä romanikielen opetus ~~ei~~ toteudu riittävästi kuntatasolla. Kaikilla opetustyötä tekevillä ei ole pedagogista koulutusta eikä riittävää kielitaitoa. Ajantasaista koulutus- ja oppimateriaalia ei myöskään ole riittävästi. Romanikielen opetus ei myöskään toteudu riittävästi kuntien kouluissa. Romanikielen opettaminen peruskouluissa alkoi vuonna 1989, ja opetus on osittain elvyttänyt romanikielen käyttöä.

■語句・文法

on turvattu「保障されている」受完 ＜ turvata ＜ turva／voimaan astuneessa「発効したような」（astuneessa［内］＜ astunut 能過分 ＜ astua）／turvataan「保障される」受現 ＜ turvata／kehittämiseen「発展させることへ」［入］＜ kehittäminen 動名 ＜ kehittää／yllä-pitämiseen「維持することへ」［入］＜ -pitäminen 動名 ＜ -pitää／tukevat「支援するような」［複主］＜ tukeva 能現分 ＜ tukea／yksiköt「部署は、部門は」［複主］＜ yksikkö ＜ yksi／valtion-hallinnossa「国家行政において」［内］＜ -hallinto／riittäviä「十分な」［複分］＜ riittävä 能現分 ＜ riittää／ei toteudu「実現しない」単 3 現否 ＜ toteutua ＜ tosi（eikä の中にすでに否定動詞 ei が出てきているので、toteudu の直前の ei は不要だと思います）／riittävästi「十分に」［副］＜ riittävä／kunta-tasolla「（基礎）自治体レベルにおいて」［接］＜ -taso／tekevillä「する人々に」［複接］＜ tekevä 能現分 ＜ tehdä／pedagogista「教育学的な」［分］＜ pedagoginen／kieli-taitoa「言語能力」［分］＜ -taito／ajan-tasaista「最新の」［分］＜ -tasainen／koulutus- ja oppi-materiaali「教育教材と学習教材」／peru-skoulu「基礎学校」（日本の小中学校に相当しますが、7 歳から 9 年間通うのが標準的だと思います。）／osittain「部分的に、一部は」＜ osa／on elvyttänyt「再生した、生き返らせた、活性化させた」単 3 完 ＜ elvyttää ＜ elpyä ＜ elää

●フィンランド語理解のための訳例

ロマニ語の|地位を|保障されている|法により、|というのも|2000 年に|効力へ|踏み入った|基本法において|保障される|［権利を|ロマ人文化の|そして|言語の|発展させることへ|さらに|維持することへ］。文化を|そして|言語を|支援するような|部署は|国家行政において|しかしなら|十分ではない、|そして～ない|ロマニ語の|授業は|実現し|十分に|（基礎）自治体レベルにおいて。すべての|教育作業を|行う人々に|ない|教育学的な教育が|そして～ない|十分な|言語能力が。最新の|教育〈教材〉|そして|学習教材は|また|ない|十分に。ロマニ語の授業は|また|実現しない|十分に|（基礎）自治体の|学校で。ロマニ語の|教えることは|基礎学校において|始まった|1989 年に、|そして|教育は|部分的に|生き返らせた|ロマニ語の|使用を。

◎意訳

ロマニ語の地位は法により保障されている。なぜなら 2000 年に発効した新しい基本法において、ロマ人文化と言語を発展させ維持することに対する権利が保障されているからである。しかし、国家行政において〈ロマ人の〉文化と言語を支援する部署は十分にはなく、ロマニ語の教育もまた（基礎）自治体レベルにおいては十分には実現していない。〈ロマニ語の〉教育活動に携わるすべての人が教育学的な訓練を受けているわけではなく、また十分な〈ロマニ語の〉言語能力を有しているのでもない。時代に合った教材もまた十分ではない。さらに、ロマニ語の教育は（基礎）自治体の学校では十分には実現していない。基礎学校におけるロマニ語教育は 1989 年に始まったが、この教育により一部ではロマニ語の使用が息を吹き返している。

★補足

ここで言及されている基本法の内容については、『フィンランド語の世界を読む』17 章のテキスト 2 を参照してください。

【17】ロマ人の子どもたちは社会的排除や人種差別に遭遇している

Romanilasten elämä Suomessa näyttäytyy muuten varsin myönteisenä, mutta sitä varjostavat syrjintä ja rasismi, kertoo lapsiasiavaltuutetun tuore selvitys.

■語句・文法

näyttäytyä「姿を現す」< näyttää < näkyä < nähdä／muuten「他の点においては、それ以外の点では」／myönteisenä「肯定的なものとして」［様］< myönteinen／varjostaa「影を落とす」／rasisimi「人種差別」／lapsi-asia-valtuutetun「子どもオンブズマンの」［属］< -valtuutettu（valtuutettu「代理人」受過分 < valtuuttaa）／tuore「最新の」／selvitys「調査、報告書」< selvittää < selvä

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人の子どもたちの|生活は|フィンランドにおいて|姿を現す|他の点においては|きわめて|肯定的なものとして、|しかし|それに|影を落とす|差別が|そして|人種差別が、|語る|子どもオンブズマンの|最新の|報告書は。

◎意訳

フィンランドにおけるロマ人の子どもたちの生活はきわめて肯定的なものに思えるが、ただし社会的排除や人種差別が影を落としていると子どもオンブズマンの最新調査は語っている。

★補足

日本の総務省のホームページでは、「オンブズマン」について次のような説明がなされています。

> オンブズマン制度は、19 世紀初めにスウェーデンにおいて初めて設置された制度で、高い識見と権威を備えた第三者（オンブズマン）が、国民の行政に対する苦情を受け付け、中立的な立場からその原因を究明し、是正措置を勧告することにより、簡易迅速に問題を解決するものです。第 2 次世界大戦後、ヨーロッパを始め世界各国に設立され、行政苦情救済の仕組みとして、広く普及しています。

<https://www.soumu.go.jp/main_sosiki/hyouka/soudan_n/kokusaikouryu.html#:~:text=%E3%82%AA%E3%83%B3%E3%83%96%E3%82%BA%E3%83%9E%E3%83%B3%E5%88%B6%E5%BA%A6%E3%81%AF%E3%80%8119%E4%B8%96%E7%B4%80,%E3%82%92%E8%A7%A3%E6%B1%BA%E3%81%99%E3%82%8B%E3%82%82%E3%81%AE%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82>

【18】半数以上のロマ人児童が暴言、仲間外れ、暴力を経験している

Selvityksessä tavoitetuista lapsista yli puolet oli kokenut syrjintää. Lasten kuvailemat tilanteet olivat jatkuvaa rasistista haukkumista ja ulkopuolelle jättämistä sekä fyysistä väkivaltaa. Useimmiten kiusaaminen ja syrjintä tapahtui koulussa.

■語句・文法

tavoitetuista「調査されたような（つかまえられたような）」［複出］< tavoitettu 受過分 < tavoittaa／yli puolet「半分以上は」（puolet［複主］< puoli）／oli kokenut「経験していた」単 3 過完 < kokea／kuvailemat「描き出すような」［複主］< kuvailema 動分 < kuvailla > kuvata／jatkuvaa「継続的な」［分］< jatkuva 能現分 < jatkua < jatkaa／rasistista haukkumista「人種差別的な暴言」［分］< rasistinen haukkuminen（haukkuminen 動名 < haukkua）／ulko-puolelle「外側へ、外部へ」［向］< -puoli／jättämistä「残すこと、置いておくこと」［分］< jättäminen 動名 < jättää／fyysistä väki-valtaa「物理的暴力」［分］< fyysinen väki-valta／useimmiten「ほとんどの場合」< usein／kiusaaminen「いじめること」動名 < kiusata

●フィンランド語理解のための訳例

報告書において｜調査された｜子どもたちのうち｜半数以上が｜経験していた｜差別を。子どもたちの｜描き出す｜状況は｜であった｜継続的な｜人種差別的な｜暴言を吐くこと｜そして｜外部へ｜置き去りにすること｜さらに｜物理的な｜暴力。ほとんどの場合｜いじめること｜そして｜排除は｜起こっていた｜学校で。

◎意訳

報告書において調査された子どもたちのうち半数以上が排除を経験したことがあった。子どもたちが語る状況というのは、人種差別的な暴言を継続的に吐くこと、仲間はずれにすること、さらには物理的暴力などであった。いじめや差別はほとんどの場合学校で起こっていた。

【19】学校ではいじめや差別に介入してくれないとロマ人児童たちは感じている

Lapsiasiavaltuutetun selvityksessä haastateltiin 18:aa iältään 11–17-vuotiasta lasta. Sähköiseen kyselyyn vastasi 93 lasta.

Noin puolet lapsista koki, ettei koulussa kiusaamis- ja syrjintätilanteisiin puututtu lainkaan.

■語句・文法

haastateltiin「インタビューされた」受過 < haastatella／18:aa = kahdeksaa-toista「18 の」［分］< kahdeksan-toista／iältään「年齢からすると、年齢の点では」［奪］+ 複 3 所接 < ikä／sähköiseen kyselyyn「電子アンケートへ」［入］< sähköien kysely／ettei = että ei「～ではないこと」／kiusaamis- ja syrjintä-tilanteisiin「いじめや差別の状況へ」［複入］< -tilanne（kiusaamis- < kiusaaminen 動名 < kiusata）／ei puututtu「介入されなかった」受過否< puuttua（puututtu 受過分 < puuttua）／lainkaan「まったく（～ない）」

●フィンランド語理解のための訳例

子どもオンブズマンの|報告書において|インタビューされた|18 人の|年齢の点からすると|11 歳から 17 歳の|子どもを。電子の|アンケートへ|答えた|93 人の|子どもが。

［約|半分|子どもたちのうち］|経験した、|［ではないことを|学校で|いじめることの〈状況へ〉|そして|差別の状況へ|介入されて|まったく］。

◎意訳

子どもオンブズマンの調査においては、年齢の点では 11 歳から 17 歳の子どもたち 18 名にインタビューを行った。〈さらに〉電子アンケートには 93 名の子どもたちが回答した。

子どもたちのうち約半数は、学校におけるいじめや差別の場面において何ら対応がなされなかったという経験をしていた。

【20】移動生活はロマ人たちの伝統だと考えられてきた

Romanit ovat kielellinen ja kulttuurinen vähemmistö, ja heitä asuu ympäri maailmaa. Kautta historiansa suuri osa romaneista on ollut liikkuvaista kansaa, mistä johtuen heillä ei ole ollut vakituista kotia ja asuinpaikkaa. Kiertämisen on ajateltu kuuluvan romanien tapoihin ja perinteisiin. Syynä kiertämiseen ovat kuitenkin olleet lähinnä käytännön syyt.

■語句・文法

ympäri maa-ilmaa「世界中に」／kautta historiansa「（自らの）歴史を通して」（historiansa［属］+単 3 所接 < historia）／liikkuvaista kansaa「移動するような民族」［分］< liikkuvainen kansa（liikkuvainen < liikkuva 能現分 < liikkua）／mistä johtuen「そのために（そのことから導かれて）」（mistä［出］< mikä。この mikä は前の節の内容全体を受ける関係詞。johtuen e 不［具］< johtua）／vakituista kotia「永続的な家、決まった住所」［分］< vakituinen koti／asuin-paikkaa「居住場所」［分］< -paikka／kiertämisen on ajateltu kuuluvan「移動することは属すると考えられてきた」（kiertämisen［属］< kiertäminen 動名 < kiertää、on ajateltu 受完 < ajatella、kuuluvan［属］< kuuluva 能現分 < kuulua）〔分構〕／tapoihin ja perinteisiin「慣習へ、そして伝統へ」［複入］< tapa ja perinne／syynä「理由として」［様］< syy／käytännön「実用の、実際の、現実の」［属］< käytäntö／最後の文は主語が syyt「理由」という複数の主格で、それと結びつく syynä「理由として」は単数の様格になっているのが少し不思議です。そもそも「理由としてあるのは～理由である」という表現自体に少し違和感を抱きますが……

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人たちは|である|言語的な|そして|文化的な|少数派、|そして|彼らは|住む|世界中に。その歴史を通して|［大きな|部分は|ロマ人たちのうち］|であった|移動するような|民族、|そのことから|導かれて|彼らには|なかった|永続的な|家は|そして|居住場所は。移動することの|考えられてきた|属すると|ロマ人たちの|慣習へ|そして|伝統へ。［理由として|移動することへ］|あった|しかしながら|おもに|実際の|理由が。

◎意訳

ロマ人たちは言語的・文化的な少数派であり、また彼らは世界中に居住している。その歴史を通じてロマ人たちの大部分は移動をする民族であったが、そのため彼らは決まった家や居住場所をもってこなかった。移動はロマ人たちの慣習と伝統に属するものだと考えられてきた。しかし、移動の理由はおもに現実的なものであった。

★補足

ロマ人たちが移動生活をしてきたことが差別や排除の理由に一つだったようです。定住し納税する、あるいは国防に貢献するなどといったことが求められてきたヨーロッパにおいて、彼らは危険な存在だとみなされたようです。

【21】移動生活には現実的な理由があった

Suomessa romanien harjoittamat elinkeinot, kuten kaupankäynti, hevostenhoito ja maataloissa tapahtuvat tilapäistyöt vaativat liikkumista eikä asuntojenkaan saanti ollut helppoa. Kotiseudulla on kuitenkin suuri merkitys romaneille ja viimeinen leposija halutaan usein siltä paikkakunnalta, jossa romani on syntynyt ja kasvanut.

■語句・文法

harjoittamat「行うような、携わるような」［複主］< harjoittama 動分 < harjoittaa／elin-keinot「生業は」［複主］< -keino／kaupan-käynti「商売、交易」／hevosten-hoito「馬の世話、馬の飼育」／maa-taloissa「農家で」［複内］< -talo／tapahtuvat「行われるような、起こるような」［複主］< tapahtuva 能現分 < tapahtua／tila-päis-työt「一時的な仕事」（tila-päis- < tila-päinen）／vaatia「要求する」／liikkumista「動くことを」［分］< liikkuminen 動名 < liikkua／asuntojenkaan「住居のも、また住居の」［複属］+ -kaan < asunto／saanti「入手」< saada／koti-seudulla「故郷において、出身地において」［接］< -seutu／lepo-sija「埋葬地（休息の地）を」［主対］／halutaan「望まれる」受現 < haluta／siltä paikka-kunnalta, jossa ~「～であるような場所から」

●フィンランド語理解のための訳例

フィンランドで｜ロマ人たちの｜行うような｜生業は、｜［のような｜商売、｜馬の飼育｜そして｜農家で｜行われるような｜一時的作業］｜要求する｜移動することを｜そして～ではない｜住居のも｜入手は｜容易で。出身地には｜ある｜しかしながら｜大きな｜意味が｜ロマ人たちにとって｜そして｜最後の｜休息の地を｜望まれる｜しばしば｜［場所から、｜そこで｜ロマ人は｜生まれた｜そして｜育った］。

◎意訳

フィンランドでロマ人たちが従事する商売、馬の飼育、そして農家での一時的な仕事といった生業は移動することを要求し、住宅を手に入れることも容易ではなかった。しかしロマ人たちにとって生まれ故郷は大きな意味をもち、ロマ人が生まれ育った場所は、しばしば彼らが最後の休息地となることを望む場所である。

【22】ロマ人文化は親密な人間関係と慣習の尊重にもとづく

Romanikulttuuri perustuu tiiviille ihmissuhteille sekä tapojen noudattamiselle. Muun muassa vanhempien kunnioittaminen on tärkeää, tunne-elämää korostetaan ja lapset pyritään kasvattamaan ulospäin suuntautuneiksi ja sosiaalisesti taitaviksi.

■語句・文法

tiiviille ihmis-suhteille「親密な人間関係へ」［複向］< tiivis ihmis-suhde／tapojen noudattamiselle「慣習にしたがうことへ」（tapojen［複属］< tapa、noudattamiselle［向］< noudattaminen 動名 < noudattaa）／muun muassa「なかでも、とりわけ」／vanhempien「年上の者たちの、両親の」［複属］< vanhempi 比 < vanha／kunnioittaminen「尊重すること、敬うこと」動名 < kunnioittaa <

kunnia／tunne-elämää「（さまざまな）感情を、生活の感情にかかわる側面を」［分］< -elämä／korostetaan「強調される、重要視される」受現 < korostaa／lapset「子どもたちを」［複主対］< lapsi／pyritään「試みられる」受現 < pyrkiä（+ MA 不［入］）／kasvattamaan「育てようと」MA 不［入］< kasvattaa < kasvaa／ulos-päin「外へ、外へ向けて」／suuntautuneiksi「向かうようなものへ」［複変］< suuntautunut 能過分 < suuntautua < suunnata < suunta／taitaviksi「巧みなものへ」［複変］< taitava 能現分 < taitaa

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人文化は|もとづく|親密な|人間関係へ|そして|慣習の|したがうことへ。なかでも|年上の者たちの|尊重することは|重要である、|生活の感情的な側面を|重要視される|そして|子どもたちを|試みられる|育てようと|外へ|向かうようなものへ|そして|社会的に|巧みなものへ。

◎意訳

ロマ人文化は親密な人間関係と慣習の尊重にもとづくものである。なかでも年配者を敬うことは重要であり、また生活における情緒的な側面が重要視され、さらには子どもたちは外交的で社会的な技能をもつような人間に育てようとする。

【23】

Selkeimmin romanikulttuuri eroaa valtaväestön kulttuurista keskeisen arvoperustansa osalta. Romanikulttuuri on ennen kaikkea ihmissuhdekulttuuri, jossa perhe ja suku ovat keskeisessä asemassa. Valtaväestölle tyypillinen kilpailumentaliteetti, rahan ja aseman arvostus ovat vieraita. Ihmisen arvostus perustuu sosiaalisten taitojen hallintaan, kulttuuriin sitoutumiseen sekä ikään ja sukupuoleen. Myös tunteiden ja intuition merkitys korostuu. Kohteliaisuus, vieraanvaraisuus ja aito kiinnostus toisen kuulumisista ovat osa sosiaalista kanssakäymistä.

■語句・文法

selkeimmin「もっとも明確に」［副］最 < selkeä／erota「異なる」／valta-väestö「多数派住民、主流派人口」／keskeisen arvo-perustan「中心的な価値基盤の、核となる価値観の」／osalta「～に関して、～の部分において」［奪］< osa／ennen kaikkea「何よりも」／ihmis-suhde-kulttuuri「人間関係〈を重視する〉文化」／suku「親族」／tyypillinen「典型的な」< tyyppi／kilpailu-mentaliteetti「競争心、競い合うメンタリティー」／arvostus「（高い）評価」／vieraita「見知らぬ、無縁の」［複分］< vieras／perustua「もとづく」／sosiaalisten taitojen「社会（的）技能の、ソーシャルスキルの」［複属］< sosiaalinen taito（「社会（的）技能」とは他者との関係を築き、社会の中で生活を営んでいくための知識や技能のことをさします。）／hallintaan「制御へ、管理へ、扱う能力へ、コントロールへ」［入］< hallinta < hallita／sitoutuminen「忠実であること」動名 < sitoutua／intuition「直感の、直観の」［属］< intuitio／korostua「強調される、重視される」< korostaa／kohteliaisuus「礼儀正しさ」

< kohtelias < kohdella／vieraan-varaisuus「もてなしの心」／kiinnostus「興味、関心」< kiinnostaa／toisen kuulumisista「他者のニュースについて、他者の話題について、他者の様子について」（kuulumisista［複出］< kuuluminen 動名 < kuulua。kuuluminen は複数形で使って「ニュース、最近の話題、知らせ」などという意味をもちます。）／sosiaalista kanssa-käymistä「社会的な交流の」［分］< sosiaalinen kanssa-käyminen（この分格の語は直前の osa「一部」を修飾します）

●フィンランド語理解のための訳例

もっとも明確に|ロマ人文化は|異なる|多数派住民の|文化から|［中心的な|価値基盤の|部分から］。ロマ人文化は|である|なによりも|人間関係文化、|そこでは|家族は|そして|親族は|ある|中心的な|地位に。多数派住民に|典型的な|競争心は、|金の|そして|地位の|（高い）評価は|無縁である。人の|評価は|もとづく|社会的な|技能の|扱う能力へ、|文化へ|忠実であることへ|さらに|年齢へ|そして|性別へ。また|感情の|そして|直感の|意味は|重視される。礼儀正しさは、|もてなしの心は|そして|［本当の|関心は|他者の|様子について］|である|一部|社会的な|交流の。

◎意訳

ロマ人文化を多数派文化からもっとも明確に区別するのは、基盤となる中心的な価値観である。ロマ人文化とは何よりも人間関係の文化であり、そこでは家族と親族が中心的な地位を占める。多数派住民に典型的な競争心、あるいは金銭や地位を高く評価することはロマ人文化には無縁である。人間の評価は、社会的技能を身につけているのか、文化に対して忠実であるのか、さらには年齢や性別にもとづいてなされる。また感情や直感の意味も重視される。礼儀正しさ、もてなしの心、他者の状況に対する心からの関心といったものが、社会的な関係を築き維持することの一部となるのである。

★補足

ロマ人たちの価値観や文化的特徴も差別や迫害の一つの要因となったようです。たとえば、ロマ人たちの文化においては男性と女性の役割が比較的明確に区別されてきたとされています。国際的にも男女平等の実現度がとくに高いとされる北欧諸国においては、ロマ人文化における性の考え方が多数派文化のそれとは対立する可能性もあるでしょう。

【24】ロマ人たちの価値観は多数派のそれとは大きく異なっているかもしれない

Suomen koulutusta painottavassa kulttuurissa romaniväestön suhteellisesti alhaisempi koulutustaso on ollut yksi suurimmista syrjinnän ja ~~huonoosaisuuden~~ **huono-osaisuuden** syistä. Nykyisin romanit kuitenkin kouluttautuvat useisiin ammatteihin ja osallistuvat ammatillisiin jatko- ja täydennyskoulutuksiin.

■語句・文法

painottavassa「重視するような」［内］< painottava 能現分 < painottaa < paino／romani-väestön「ロマ人口の、ロマ人集団の」［属］< -väestö／suhteellisesti「比較的、相対的に」［副］<

suhteellinen < suhde／alhaisempi「より低い」比 < alhainen／koulutus-taso「教育水準」／suurimmista「もっとも大きな」[複出]< suurin 最 < suuri／huonoosaisuuden となっていますが、huono-osaisuuden と表記すべきと思います。huono-osaisuuden「不利（な状況に置かれていること）の、不利益（を被っていること）の」[属]< -osaisuus < -osainen／syistä「理由のうち」[複出]< syy／kouluttautua「教育を受ける」< kouluttaa < koulu／useisiin ammatteihin「多くの職業へ」[複入] < usea ammatti／ammatillisiin「職業（上）の」[複入]< ammatillinen < ammatti／jatko- ja täydennys-koulutuksiin「継続研修や現職者研修へ」[複入]< -koulutus

●フィンランド語理解のための訳例

フィンランドの|教育を|重視するような|文化において|ロマ人集団の|比較的|より低い|教育水準は|であった|[一つ|もっとも大きな|差別の|そして|不利益の|理由のうち]。現在では|ロマ人たちは|しかしながら|教育を受けている|多くの|職業へ|そして|参加している|職業上の|継続〈研修〉|そして|現職者研修へ。

◎意訳

フィンランドのような教育を重視する文化の中にあって、ロマ人集団の相対的に低い教育水準は、〈彼らに対する〉差別や不利益の最大の理由の一つとなっている。しかし現在では、ロマ人たちはさまざまな職業へ向けての教育をうけるようになっており、さらに継続教育や現職者研修に参加している。

★補足

多くのロマ人たちは移動生活をしていたこともあり、子どもたちの就学状況は必ずしも良好ではなかったようです。また、ロマ人たち自身が学校教育を「子どもたちを多数派文化に同化させるための場所」だと考え、子どもを就学させることに否定的だったともいわれています。その結果としてロマ人たちの教育水準は低くとどまり、生活水準も多数派に比べ低いものとなったのかもしれません。そして、そのことが多数派による差別の大きな要因の一つとなってきたのかもしれません。

【25】ロマ人たちの間には分断が生まれつつある

Romaniväestön keskuudessa vaikuttaakin siltä, että kehittymässä on uudenlainen sosiaalinen jakautuminen, jossa romanikansaa jakaa koulutus ja sen kautta kiinnittyminen yhteiskuntaan. Koulutetut romanit ovat tietoisia romaniperinteestä ja pitävät sitä arvossa, mutta eivät kuitenkaan eristäydy suomalaisesta yhteiskunnasta. Köyhimpien romanien joukossa perinteisissä tavoissa pitäytyminen taas saattaa johtaa muusta yhteiskunnasta eristäytymiseen.

■語句・文法

vaikuttaa-kin siltä, että ~「（実のところ、実際に）～のようだ」（-kin は「実のところ、実際に」とでも訳せると思います。vaikuttaa +［奪］「～のようだ」）／kehittymässä「発展しようとしつつ、生まれようとしつつ」MA 不［内］< kehittyä／uuden-lainen「新しい種類の」／jakautuminen「分断、分かれるこ

と」動名 < jakautua < jakaa／kiinnittyminen「結びつくこと、愛着をもつこと」動名 < kiinnittyä < kiinnittää < kiinni／koulutetut「教育を受けたような」[複主]< koulutettu 受過分 < kouluttaa／tietoisia「認識しているような」[複分]< tietoinen < tieto < tietää／romani-perinteestä「ロマ人の伝統について」[出]< -perinne／pitää arvossa「高く評価する、尊重する」／eristäytyä「孤立する」< eristää < eri／köyhimpien「もっとも貧しい」[複属]< köyhin 最 < köyhä／joukossa「集団の中で」[内]< joukko／pitäytyminen「しがみつくこと、とどまること」動名 < pitäytyä < pitää／eristäytymiseen「孤立することへ」[入]< eristäytyminen 動名 < eristäytyä

●フィンランド語理解のための訳例

ロマ人口の|間で|[ようだ|発展しつつ|ある|新しい種類の|社会的な|分かれることが、|そこでは|ロマ民族を|分ける|教育が|そして|その|通じて|結びつくことが|社会へ]。教育を受けたような|ロマ人たちは|認識している|ロマ人の伝統について|そして|保つ|それを|価値の中に、|しかし|それでも|孤立しない|フィンランドの|社会から。もっとも貧しい|ロマ人たちの|集団の中で|伝統的な|慣習の中に|とどまることは|一方|かもしれない|導く|他の|社会から|孤立することへ。

◎意訳

ロマ人集団の間では新たな社会的分断が生まれつつあるように思われるが、そこでは教育と、それを通じての社会へのつながりがロマ人集団を分断している。教育を受けたロマ人たちはロマ人の伝統について認識し尊重していながらも、フィンランド社会から孤立するようなことはない。一方、もっとも貧しいロマ人たちの間では伝統的な慣習にしがみつくことが他の社会からの孤立へと導く可能性がある。

★補足

すでに触れたように、欧州審議会による「地域言語または少数言語のための欧州憲章」の締約国は、条約の履行状況等について定期的に報告書を提出することを義務づけられています。それでは、フィンランドが 2023 年に提出した第 6 回定期報告書からロマニ語に関する提言の部分についてみていきます。

【26】ロマニ語の地位改善のための提言

Suositus – Romanikielisten opettajien koulutuksen lisääminen, romanikielisen oppimateriaalin tuotannon laajentaminen ja romanikielen opetustarjonnan parantaminen

■語句・文法

suositus「推奨、提言」< suosittaa <suosia／lisääminen「増やすこと」動名 < lisätä／tuotannon「作成の、生産の」[属]< tuotanto < tuottaa／laajentaminen「拡大すること」動名 < laajentaa < laaja／opetus-tarjonnan「教育提供の」[属]< -tarjonta ⇒ tarjota／parantaminen「改善すること」動名 < parantaa ⇒ parata, perempi, paras

●フィンランド語理解のための訳例

推奨―ロマ語の|教員たちの|教育の|増やすこと、|ロマに語の|教材の|作成の|拡大すること|そして|ロマ語の|教育提供の|改善すること

◎意訳

提言―ロマ語教員の教育研修の増加、ロマ語教材の作成の拡大、そしてロマ語の教育機会提供の改善

【27】フィンランドのロマニ語はユネスコ「危機言語」リストに含まれている

Romanikielen asema Suomessa on erittäin uhanlainen, erityisesti nuorten aikuisten, teini-ikäisten ja lasten keskuudessa. Se on myös Unescon uhanalaisten kielten luettelossa. Romanikieli ei siirry enää luonnollisella tavalla uusille käyttäjille. Yksi haaste on romaniyhteisön voimaannuttaminen niin, että se rohkaistuisi käyttämään kieltään. Tähän pyritään ennen muuta romanikielen elvyttämisen toimenpiteillä.

■語句・文法

erittäin「きわめて」／uhan-alainen「（消滅の）脅威にさらされたような、絶滅危惧の」（uhan［属］< uhka）／nuorten aikuisten「若年層の（若い成人たちの）」［複属］< nuori aikuinen／teini-ikäisten「十代の人々の、ティーンエイジャーの」［複属］< -ikäinen < ikä／keskuudessa「～の間において」< keski- ⇒ keskuudesta, keskuuteen／Unescon「ユネスコの」［属］< Unesco／luettelossa「リストの中に」［内］< luettelo < luetella < lukea／ei siirry「移らない」単 3 現否 < siirtyä／luonnollisella tavalla「自然な方法で」［接］< luonnollinen tapa／uusille käyttäjille「新しい使用者たちへ」［複向］< uusi käyttäjä／haaste「挑戦、課題」< haastaa／romani-yhteisön「ロマ人共同体の、ロマ人社会の」［属］< -yhteisö < yksi／voimaannuttaminen「力をもたせること、エンパワー（メント）すること」動名 < voimaannuttaa < voimaantua < voima／niin, että ~「～するように、～になるように」／rohkaistuisi「勇気をもつだろう、勇気をもって～するだろう」［条］単 3 現 < rohkaistua（+ MA 不［入］）< rohkaista < rohkea／kieltään「自らの言語を」［分］+ 単 3 所接< kieli／pyritään「試みられる、取り組まれる」受現 < pyrkiä（+［入］）／ennen muuta「何よりも、第一に」／romani-kielen elvyttämisen「ロマニ語再活性化の、ロマニ語を活性化させることの」（elvyttämisen［属］< elvyttäminen 動名 < elvyttää）／toimen-piteillä「行動により、施策により」［複接］< -pide

●フィンランド語理解のための訳例

ロマニ語の|地位は|フィンランドにおいて|である|きわめて|脅威にさらされたような、|とくに|若い|成人たちの、|十代の人々の|そして|子どもたちの|間において。それは|ある|また|ユネスコの|脅威にさらされた|言語の|リストの中に。ロマニ語は|移らない|もはや|自然な|方法で|新しい|使用者たちへ。一つの|課題は|である|ロマ人共同体の|力をもたせること|［ようになるように|それは

|勇気をもつだろう|使う|自らの言語を]。これへ|取り組まれる|何よりも|ロマニ語の|再活性化させることの|行動により。

◎意訳

フィンランドにおけるロマニ語の地位は、とくに若年層、十代の世代、そして子どもたちの間において危機的な状況にある。ロマニ語はまたユネスコの「（消滅）危機言語」のリストにも含まれている。ロマニ語はもはや自然な形では新たな話者たちへ継承されることはない。一つの課題は、ロマ人社会が自らの言語を使用する勇気がもてるよう、ロマ人社会に力を与えることである。これへ向けては、何よりロマニ語再活性化のための施策により取り組むことになる。

★補足

ユネスコの危機言語リストでは、言語の危機度を次の 6 段階に分類しています。

消滅：Extinct
極めて深刻：Critically Endangered
重大な危険：Severely Endangered
危険：Definitely Endangered
脆弱：Vulnerable
安全：Safe

日本の危機言語について、文化庁のサイトから引用しておきます。

> “Atlas of the World’s Languages in Danger”（第 3 版）には、世界で約 2,500 に上る言語が消滅の危機にあるとして掲載されています。日本国内では、8 言語が消滅の危機にあるとされており、掲載されている 8 言語とそれぞれの危機の度合いは次のとおりです。
>
> 【極めて深刻】アイヌ語
> 【重大な危機】八重山（やえやま）語、与那国（よなぐに）語
> 【危険】八丈（はちじょう）語、奄美（あまみ）語、国頭（くにがみ）語、沖縄（おきなわ）語、宮古（みやこ）語
>
> ※ユネスコでは「言語」と「方言」を区別せず、全て「言語」で統一しています。日本国内での一般的な認識に従った呼び方としては、「アイヌ語」、「八重山方言」、「与那国方言」、「八丈方言」、「奄美方言」、「国頭方言」、「沖縄方言」、「宮古方言」となります。
>
> <https://www.bunka.go.jp/seisaku/kokugo_nihongo/kokugo_shisaku/kikigengo/index.html>

この文化庁の説明には非常におかしな箇所があります。それは「ユネスコでは「言語」と「方言」

を区別せず、全て「言語」で統一しています」という部分です。おそらくユネスコは「言語と方言を区別していない」のではなく、リストに挙げたものを独立した「言語」とみなしているのだろうと思います。そのため「沖縄語」は日本語の一方言ではなく、独立した個別の言語として扱っているということです。ですから、わざわざ「沖縄語」というのは「沖縄方言」のことだと言ってしまうことには大きな問題があるように思います。何が「言語」で何が「方言」かを決定するのはおもに「政治」です。言語について考える際には、このあたりのことにも十分に注意しておくべきだと思います。

【28】ロマニ語の遠隔教育も計画されている

Romanikielen opettajista on pulaa. Helsingin yliopistossa voi nykyään opiskella romanikieltä ja -kulttuuria ja näitä opiskelevien määrä on kasvussa. Opetushallitus valmistelee hanketta, jossa pyritään kehittämään romanikielen etäyhteyksiä hyödyntävää opetusta. Näin romanikieltä pystyttäisiin tarjoamaan romanioppilaille monilla paikkakunnilla.

■語句・文法

opettajista「教員について」［複出］< opettaja／pulaa「不足が」［分］< pula／näitä「これらを」［分］< nämä／opiskelevien「勉強する者たちの」［複属］< opiskeleva 能現分 < opiskella／opetus-hallitus「教育庁は」／valmistella「準備する、計画する」< valmistaa < valmis／hanketta「プロジェクトを、事業を」［分］ < hanke／kehittämään「開発する」MA 不［入］< kehittää／etä-yhteyksiä「遠隔接続を、リモートでのつながりを」［複分］< -yhteys < yksi／hyödyntävää「活用するような」［分］< hyödyntävä 能現分 < hyödyntää < hyöty／pystyttäisiin「できるだろう」［条］受現 < pystyä（+［入］～MA 不［入］）／tarjoamaan「提供する」MA 不［入］< tarjota／romani-oppilaille「ロマ人生徒たちへ」［複向］< -oppilas／monilla paikka-kunnilla「多くの地元（自治体）において、多くの地域において」［複接］ < moni paikka-kunta

●フィンランド語理解のための訳例

ロマニ語の|教員について|ある|不足が。Helsinki 大学において|できる|現在は|勉強する|ロマニ語を|そして|〈ロマ人〉文化を|そして|これらを|勉強する者たちの|数は|成長している。教育庁は|計画している|プロジェクトを、|そこでは|試みられる|開発する|ロマニ語の|遠隔接続を|活用するような|教育を。こうして|ロマニ語を|できるだろう|提供する|ロマ人の生徒たちへ|多くの|地域において。

◎意訳

ロマニ語の教員は不足している。現在では Helsinki 大学でロマニ語や文化を学ぶことができるが、それらを学ぶ学生数は増加している。教育庁は、遠隔接続を活用したロマニ語の授業の開発に取り組むプロジェクトを計画している。こうして多くの地域においてロマニ語〈の教育〉をロマ人の子どもたちに提供することができるだろう。

【29】教育庁は「ロマニ語再活性化プログラム」を策定している

Opetushallitus asetti asiantuntijaryhmän 12.6.2020 valmistelemaan Suomen romanikielen elvytysohjelmaa. Romanikielen elvytysohjelma kuuluu Suomen romanipoliittisen ohjelman 2018–2022 toimenpiteisiin, jonka neljäs toimintalinja 'Romanikielen, taiteen ja -kulttuurin säilymisen ja kehittymisen tukeminen' sisältää yhteensä 17 toimenpidettä. Elvytysohjelman valmistelussa on huomioitu myös romanikielisten opettajien koulutus.

■語句・文法

asettaa「設置する」／asian-tuntija-ryhmän「専門家グループを」[属対] < -ryhmä／valmistelemaan「準備するよう、計画するよう」MA 不[入] < valmistella／elvytys-ohjelmaa「再活性化プログラムを」[分] < -ohjelma（elvytys < elvyttää）／romani-poliittisen ohjelman 2018-2022 toimen-piteisiin「ロマ人政策プログラム 2018-2022 の施策へ」（toimen-piteisiin[複入] < -pide）／neljäs toiminta-linja「四番目の活動方針」／säilymisen「維持されることの」[属] < säilyminen 動名 < säilyä／kehittymisen「発展することの」[属] < kehittyminen 動名 < kehittyä／tukeminen「支援すること」動名 < tukea／sisältää「含む」< sisä-／yhteensä「全部で」／valmistelussa「準備において、計画において」[内] < valmistelu < valmistella／on huomioitu「考慮されている」受完 < huomioida

●フィンランド語理解のための訳例

教育庁は|設置した|専門家グループを|2020 年 6 月 12 日に|準備するよう|フィンランドの|ロマニ語の|再活性化プログラムを。ロマニ語の|再活性化プログラムは|属する|フィンランドの|ロマ人政策の|プログラム 2018-2022 の|施策へ、|その|四番目の|活動指針|「ロマニ語の、|芸術の|そして|〈ロマ人の〉文化の|維持されることの|そして|発展することの|支援すること」は|含む|全部で|17 の|施策を。再活性化プログラムの|準備において|考慮されている|また|ロマニ語の|教員の|研修を。

◎意訳

教育庁はフィンランドのロマニ語再活性化プログラムを策定するために、2020 年 6 月 12 日に専門家委員会を任命した。ロマニ語再活性化プログラムは「フィンランド・ロマ人政策プログラム 2018-2022」の施策に含まれるものであり、その「ロマ人政策プログラム」における第四の活動指針である「ロマニ語、芸術、そしてロマ人文化の維持・発展の支援」は合計で 17 の施策を含んでいる。〈ロマニ語〉再活性化プログラムの策定においては、ロマニ語教師の研修も考慮に入れられている。

★補足

Suomen romanipoliittinen ohjelma「フィンランド・ロマ人政策プログラム」は欧州連合におけるロマ人政策にもとづいて策定されているもので、社会保健省の管轄下において進められているものです。第一次ロマ人政策プログラムは 2010 年から 2017 年、第二次プログラムは 2018 年から 2022 年、そして第三次プログラムは 2023 年から 2030 年の間に進められるべき施策を盛り込んでいます。

【30】ロマニ語再活性化へ向けてサーミ諸語の経験も生かそうとしている

Vakavasti uhanalaisen Suomen romanikielen elvyttämisohjelman rakentamiseksi kokemuksia ja hyviä käytäntöjä on pyritty lainaaman erityisesti saamen kielistä, joissa työtä on tehty paljon ja pitkään. Romanikielen elvytysohjelman toimenpidekausi noudattaa kolmannen romanipoliittisen ohjelman kautta 2023–2030.

■語句・文法

vakavasti「深刻に」［副］< vakava／elvyttämis-ohjelman「再活性化プログラムの」［属］< -ohjelma（elvyttämis- < elvyttäminen 動名 < elvyttää。elvyttämis-ohjelma = elvytys-ohjelma）／rakentamiseksi「構築するために」［変］< rakentaminen 動名 < rakentaa／kokemuksia「経験を」［複分］< kokemus < kokea／käytäntöjä「実践を」［複分］< käytäntö／on pyritty lainaamaan「借りようと試みられている」（on pyritty 受完 < pyrkiä、lainaamaan MA 不［入］< lainata）／saamen kielistä「サーミ諸語から」（kielistä［複出］< kieli。サーミ語が複数形になっていますが、フィンランド国内では北サーミ語、イナリ・サーミ語、スコルト・サーミ語の三言語が話されています。）／on tehty「なされてきた」受完 < tehdä／pitkään「長い間」［入］< pitkä／toimen-pide-kausi「行動期間、実施期間」／noudattaa「したがう、則る、沿う」／kolmannen romani-poliittisen ohjelman「三つ目のロマ人政策プログラムの、第三次ロマ人政策プログラムの」［属］< kolmas romani-poliittinen ohjelma／kautta「期間を／に」［分］< kausi

●フィンランド語理解のための訳例

深刻に｜脅威にさらされている｜フィンランドの｜ロマニ語の｜再活性化プログラムの｜構築するために｜経験を｜そして｜よい｜実践を｜試みられてきた｜借りようと｜とくに｜サーミ｜諸語から、｜それらにおいて｜作業を｜なされてきた｜たくさん｜そして｜長い間。ロマニ語の｜再活性化プログラムの｜活動期間は｜したがう｜第三次｜ロマ人政策｜プログラムの｜期間に｜2023-2030。

◎意訳

深刻な危機に瀕しているフィンランドのロマニ語の再活性化プログラムを構築するためには、とくに長い期間にわたって多くの作業がなされてきたサーミ諸語の経験や優れた実践を参考にするよう努めてきた。第三次ロマ人政策プログラムの活動期間に合わせ、ロマニ語の再活性化プログラムの施行期間は 2023-2030 年となっている。

★補足

Suomen romanikielen elvytysohjelma「フィンランド・ロマニ語再活性化プログラム」については、教育庁のページからダウンロードできます。

Opetushallitus（<https://www.oph.fi/fi>）
> Tietoaineistot ja analyysit

> Julkaisut（このページ内の検索欄に ”romani” を入れて検索すると出てきます）

URL を直接入力するのであれば、次の通りです。

<https://www.oph.fi/fi/tilastot-ja-julkaisut/julkaisut/suomen-romanikielen-elvytysohjelma-toimenpide-esityksineen>

◆出典

【1】:

Ulkoasiainministeriö. 2017. *Suomen viides määräaikaisraportti alueellisia kiellä tai vähemmistökieliä koskevan eurooppalaisen peruskirjan täytäntöönpanosta* <https://um.fi/documents/35732/0/MinLang_V%20raportti_Suomi_2017.pdf/dbe78dd7-510d-2013-98ac-e76803105135?t=1533727067486>

【1】6 ページ

【2】【3】【4】【5】【6】【7】【26】【27】【28】【29】【30】:

Ulkoasiainministeriö. 2023. *Suomen viides määräaikaisraportti alueellisia kiellä tai vähemmistökieliä koskevan eurooppalaisen peruskirjan täytäntöönpanosta.* <https://um.fi/documents/35732/0/ECRML_VI_raportti_2023.pdf/a9931649-8f55-27f5-f41b-fa762db75b68?t=1688463937044>

【2】【3】【4】【5】5 ページ、【6】9 ページ、【7】9-10 ページ
【26】【27】【28】【29】【30】29 ページ

【8】【9】【10】【11】【12】【13】【14】【15】【16】【23】:

”Romanit Suomessa”. *Suomen Romanifoorumi.* <https://www.romanifoorumi.fi/romanit-suomessa/>

［2024 年 8 月 3 日最終閲覧］

【17】【18】【19】:

Mantsinen, Jecaterina. 2023. ”Romanilapset kohtaavat Suomessa arjessaan syrjintää ja rasismia, selvitys kertoo”. *Helsingin Sanomat.* <https://www.hs.fi/suomi/art-2000009390869.html>

［2024 年 8 月 3 日最終閲覧］

【20】【21】【22】【24】【25】:

Virén, Hanna, Lari Peltonen ja Suomen Kulttuuriperintökasvatuksen seura ry. *Romanien reitit: Romanikulttuurin vaikutus kulttuuriympäristöön.* Suomen Kulttuuriperintökasvatuksen seura ry.
<https://kulttuurinvuosikello2.fi/wp-content/uploads/2015/09/Romanien-reitit.pdf>

【20】【21】5 ページ、【22】23 ページ、【24】【25】22 ページ